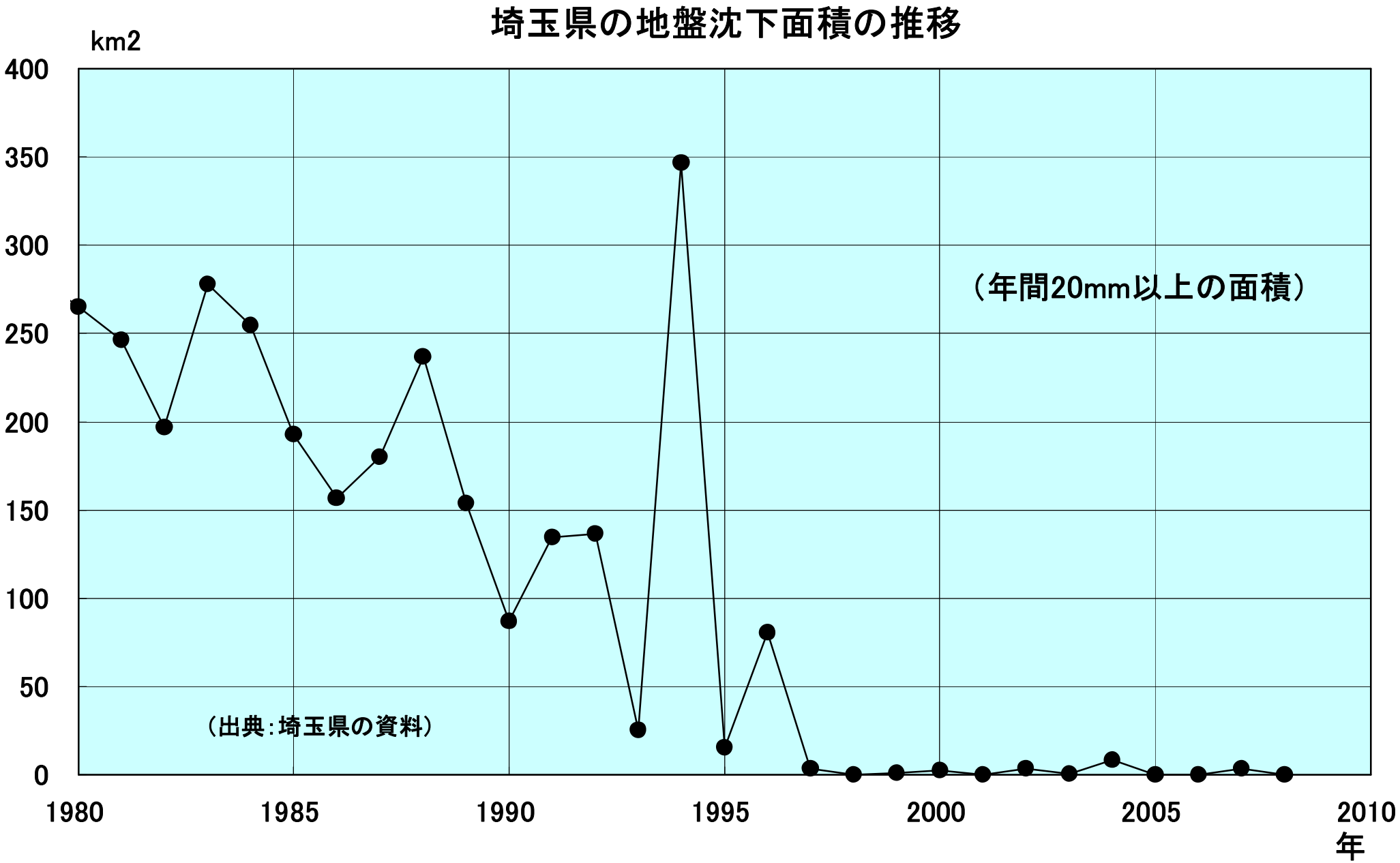
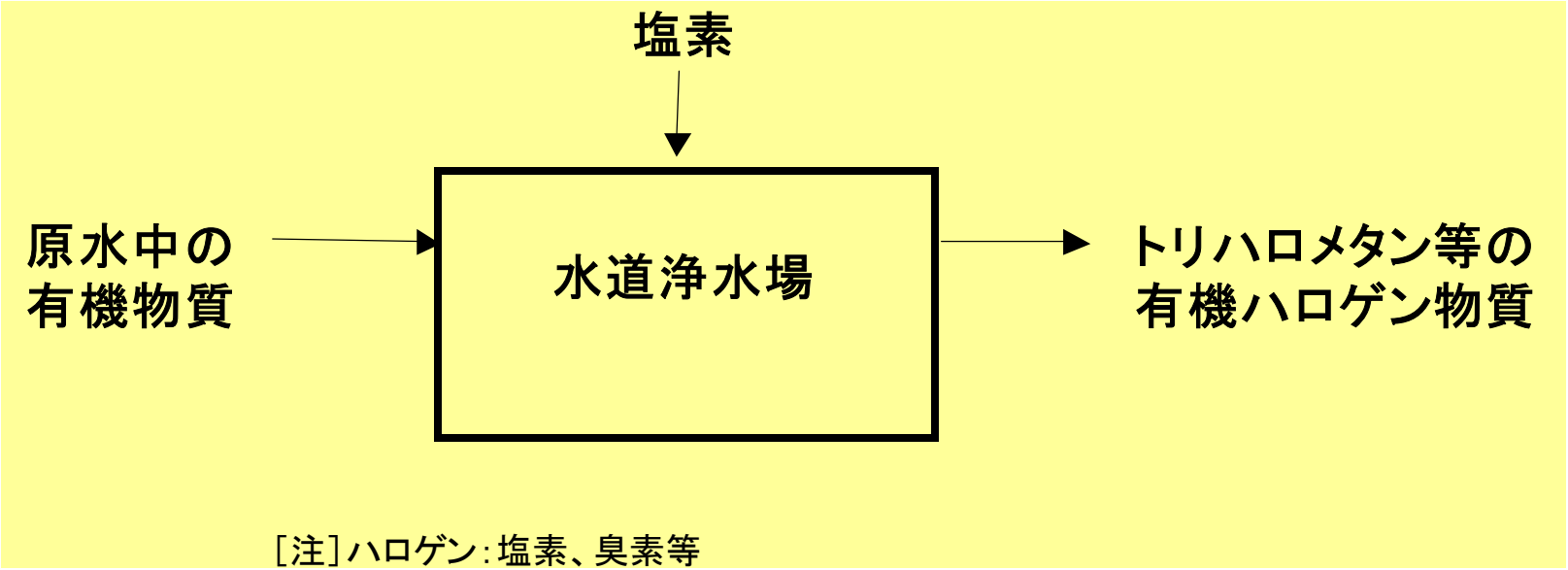
埼玉県の地盤沈下も10年以上前から沈静化



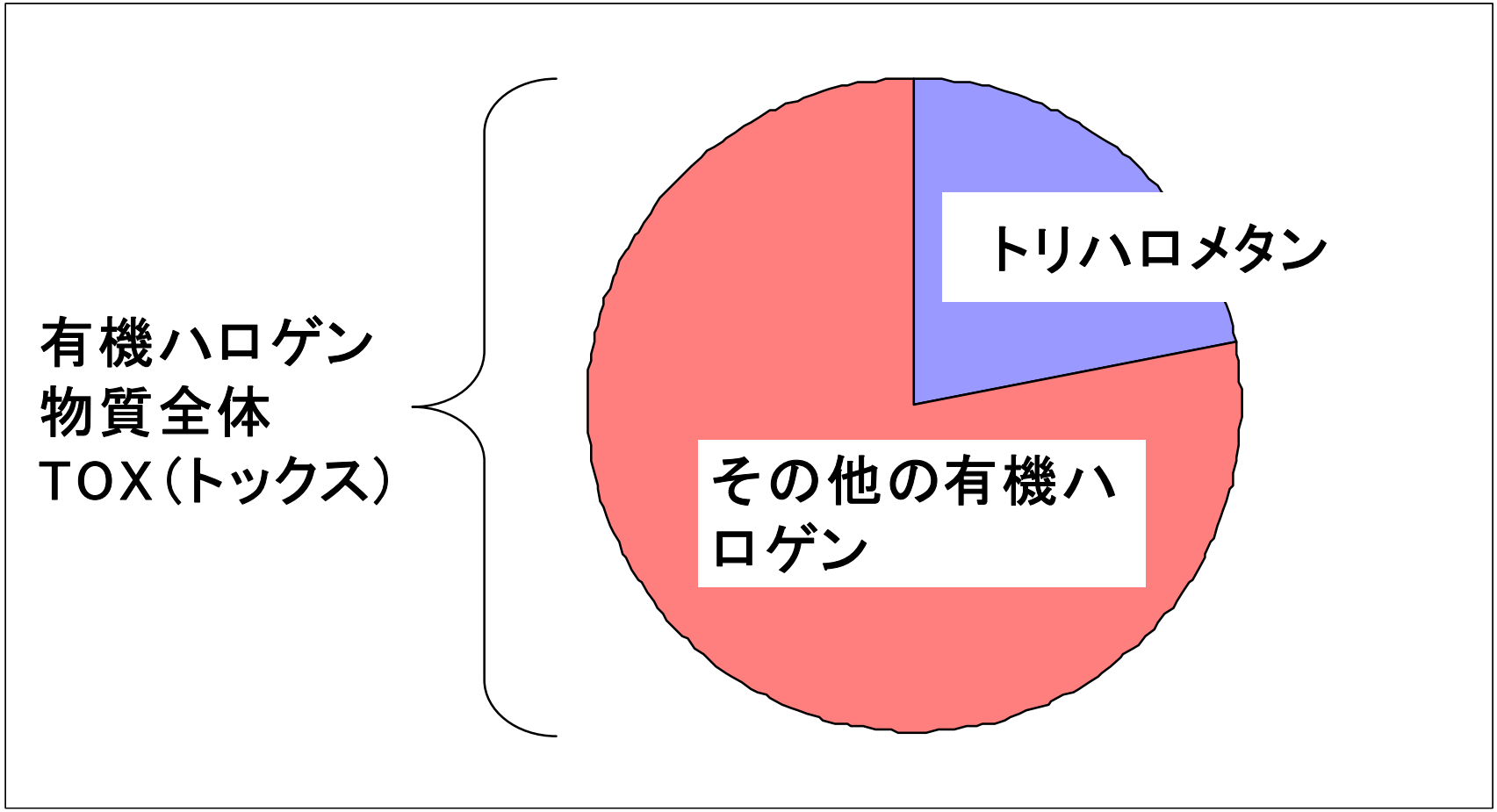
地下水は最良の水道水源

水道水中で最も問題となる水質項目の一つは
トリハロメタン

水道原水の有機物質と、浄水場で加える塩素が反応して生成される。
クロロホルム等の4種類の総称
（発がん性物質とされている）



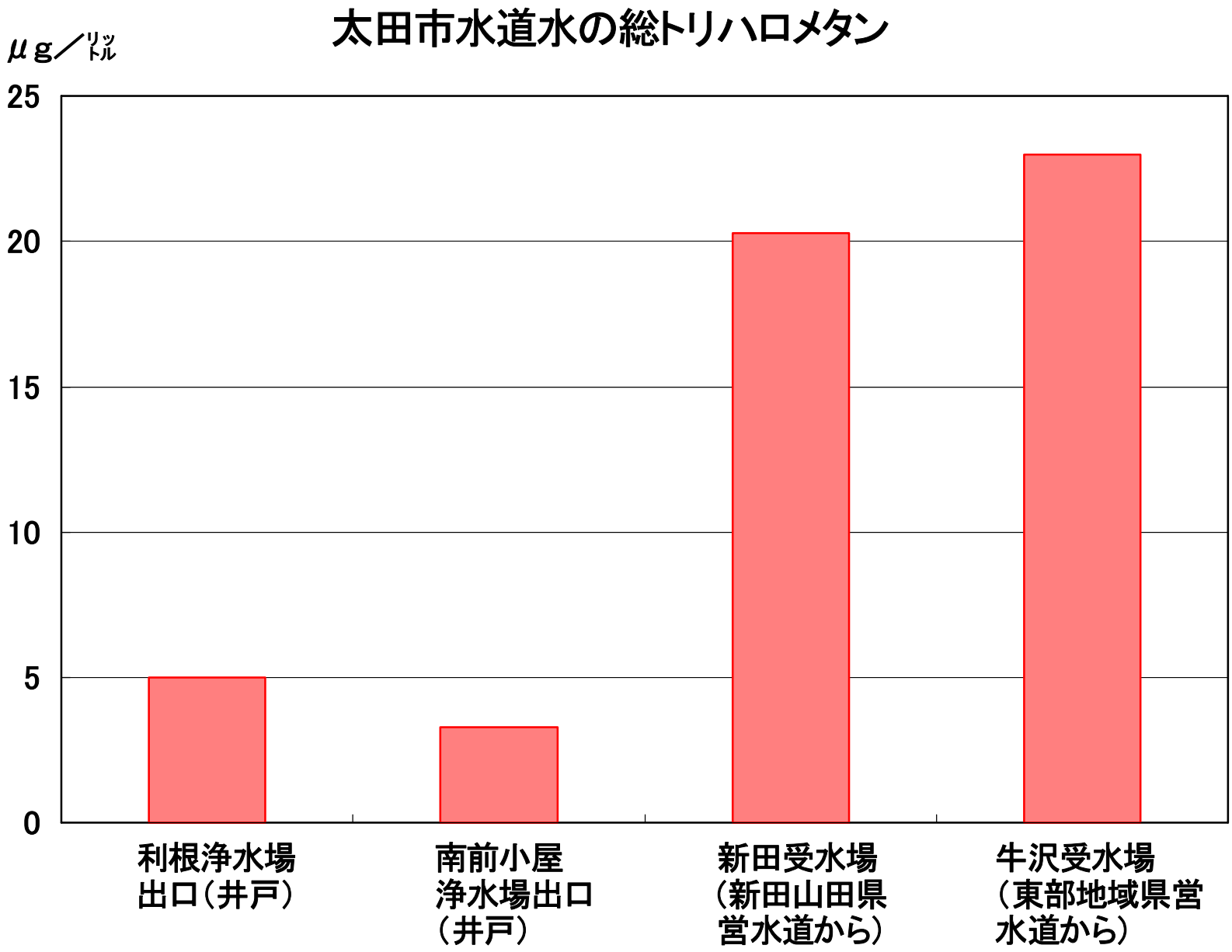
［注］ハロゲン：塩素、臭素等



水道浄水場での塩素注入で生成される有機ハロゲン物質（発がん性の疑いあり）は何十種類もあって、水質基準の項目に入っているのはその一部にすぎない。

トリハロメタンは有機ハロゲン物質全体の危険度を示す指標的な項目である。

地下水源の水道水は、県営水道の水道水よりトリハロメタン濃度がはるかに低いこと多い。



（平成21年度の4月、7月、10月の検査結果の平均　太田市のホームページより作成）

利き水

水源が異なる水道水を飲用して味の優劣をつけてもらう。
（水道水の種類は伏せたままで）

利き水の結果（美味しい順位）

第一位　地下水100%の水道水

第二位　河川の上流部で取水している水道水

第三位　河川の中下流部で取水している水道水

☆ 安全性が高く、味の面でも優れた地下水を水道水源として活用することは群馬県民にとってメリットが大きい。

☆ 地盤沈下が沈静化しているので、各市町村水道の自己水源である地下水を活用すれば、県営水道の暫定水利権がたとえなくても、県営水道給水対象地域の水道は水需給に不足をきたすことがない。

☆ 群馬県の水道給水量の規模が縮小してきているので、上記のことがますます可能となってきており、地下水重視の水行政に転換すべきである。

広桃用水転用水利権とハッ場ダムの暫定水利権について

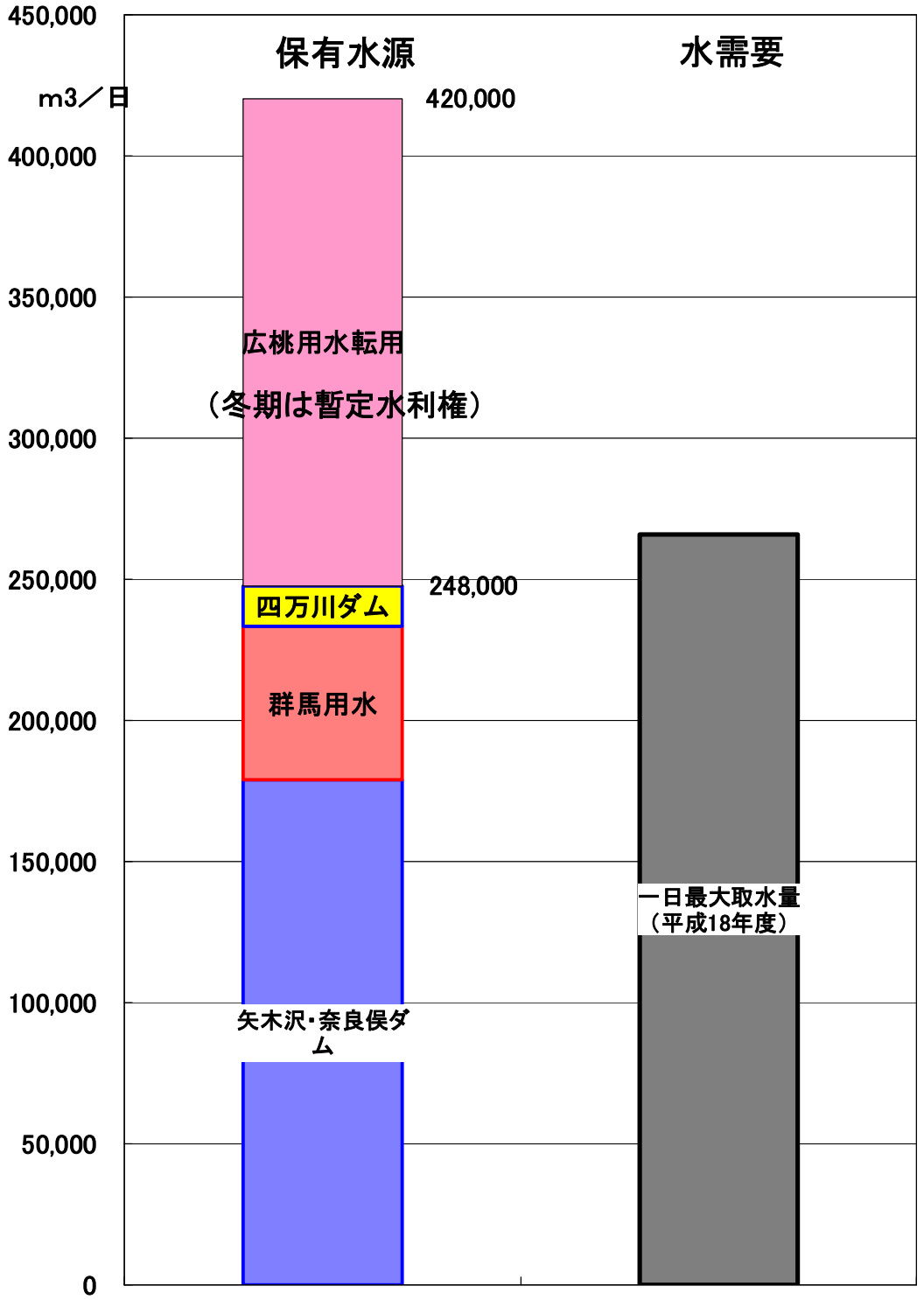
県営水道・工業用水道が保有する
広桃用水転用水利権（冬期は暫定水利権）

	保有水源	
	水源開発名	水利権量（m3／秒）
県央第二水道	矢木沢ダム＋奈良俣ダム	0.35
	広桃用水転用	1.49
東部地域水道	広桃用水転用	0.51
東毛工業用水道	草木ダム	0.60
	広桃用水転用＋奈良俣ダム	0.65
	広桃用水転用	0.35

（出典：群馬県の資料）

群馬県営水道全体の水需給（平成18年度）

群馬県営水道全体（県央第一、県央第二、東部地域、新田山田水道）で見ると、暫定水利権なしでは保有水源が少し不足する。



（出典：群馬県の資料）